

重点施策点検・評価表

2-1

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造		
重点施策			
1	安定した学校生活の中で、心豊かでたくましい人間力を培う指導に努める		担当課(館)
	① 学校訪問指導の実施		学校教育課
	活動内容	第8次学力向上の提言をうけて、「おおだて型学力」推進のための指導・助言を行う。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 各校とも「社会人基礎力」「社会人実践力」の育成に向けた人材育成に取り組み、それが学校の重点となっている。授業の中でどのように「おおだて型学力」を推進するか具体的な視点を示しながら、指導助言を行った。	
	課題等	授業での取組に温度差があるため、よい例示を示したり、組織としての取り組み方を助言していく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	学校訪問を通して「おおだて型学力」を周知することで、各校に浸透してきている。文言を「大館市民…」に変えたことも、より身近に感じられ効果があった。各教員の意識に差が表れるのはやむを得ない。学校に「組織としての取組」を助言していくことが大事である。「おおだて型学力」を「狭い学力」ととらえられることが懸念される。一般には伝わりにくいところがあるので、市民から疑問を持たれぬよう、ホームページなどで周知していく必要がある。	
	② いじめ・不登校対策事業の実施		学校教育課
	活動内容	いじめ防止基本方針の制定をうけて、それを実効性のあるものにするため、PDCAサイクルの取組状況を確認する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) いじめ報告数が多いが、学校が素早く対応し、解決できることができるようにサポートすることができた。また、各校のいじめ防止基本方針の策定に際し、適切に指導助言することができた。	
	課題等	いじめの未然防止に向けた取組ができるように指導助言していく必要がある。また、不登校生徒に対しては、今後も、スクールカウンセラー、少年相談センター、おおとり教室等と連携し、引きこもり生徒をなくする取組を継続していく。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	いじめの報告件数やおおとり教室への入級者数が多いことが、事態の悪化を指しているわけではない。実態の把握や、不登校生徒の解決の糸口がしなどを積極的に行った結果である。不登校生徒数がここ数年大きく変化していないことから、未然防止の取組を進めることも大切である。昨今の子どもに関わる事件を見ると、すざまじいものがあり、大変な時代になったと思う。その点から、「引きこもり生徒をなくす」という考えは共感できる。関係機関との連携が大事になってくる。		

重点施策点検・評価表

2-2

推進目標	
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造
重点施策	
2	自ら学ぶ意欲と態度を身に付けた子どもを育み、更なる学力向上に努める
	担当課(館)
①	社会をたくましく生き抜くための「社会人基礎力」「社会人実践力」の育成
	学校教育課
活動内容	第8次学力向上対策3カ年(平成26年～平成28年)初年度である。これまで、大館で培ってきた学力を、「おおだて型学力」の視点で捉え直し、さらなる充実を図る。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満) 「おおだて型学力推進委員会」が中心となり、各校と各協議会がそれぞれ重点目標を決めて取り組んでいる。全国学力テストの結果では、全ての学年、教科において全国平均を大きく上回っている。特に中学生の伸びが顕著である。また、質問紙から、児童・生徒の地域・社会に関する関心が高まっており、地域・社会をよくするために何をすべきか考えている児童・生徒が多くなっている。
課題等	学校格差、学年格差が見え始めているため、より自校の課題を明確にして、改善を図れるように支援していく必要がある。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	学力学習状況調査の結果を見ると、小・中ともに全国平均や全県平均を上回っており、特に中学校の伸びが著しい。また、学力だけでなく、質問紙等の結果を見ても、地域社会に関心が高い児童生徒が多くなっていることが分かり、市の施策が効果が上がっているといえる。運営状況が非常に良好な学校と、今一步の学校があると思うが、学校格差が見えてきたときは注意が必要である。背景や原因を深く探り、具体的にどのような対応をしていくかを考えなくてはならない。
②	ALT・外国語活動支援員等による外国語活動支援の実施
	学校教育課
活動内容	ALT・外国語活動支援員及び、今年度新たに配置された社会人卒の教諭を有効に活用し、さらなる外国語活動の充実、英語力・コミュニケーション能力の向上を図る。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満) ALT・外国語活動支援員・社会人卒教諭を活用し、外国語活動の充実が図られた。
課題等	来年度学校学校支援事業がなくなることから、外国語活動支援員が1名減となる。配置計画を練り直し、各校に影響がないよう進めていく必要がある。また、県の研修会も活用しながら、一人一人の職員の外国語に関わる部分の指導力の向上に努めたい。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	5名のALT、4名の外国語支援員、1名の特別社会人採用の英語教員等、指導スタッフは充実している。楽しい英語の授業も増えており、うまくいっているとらえている。授業の人的支援が、教員個々の資質向上につながらなくてはならない。特に英語については、機会を見てトレーニングする場が必要である。

重点施策点検・評価表

2-3

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造		
重点施策			
3	地域と一体となった学校づくりを推進する		担当課(館)
	① ふるさとキャリア教育を基盤とした特色ある学校経営の展開		学校教育課
	活動内容	各校のふるさとキャリア教育の取組をより充実・発展させるとともに、資源としての有効な活用を進める。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
		各校で地域の特色を生かしたプロジェクトが展開されており、内容も年々充実してきている。県内外からの評価も高く、マスコミからも注目されている。	
	課題等	地域と学校が双方向の活動になるよう目的の共有をする必要がある。また、地域素材を全教育活動の中でもっと活用できるように、教育資源を掘り起こし、教材化していきたい。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	ふるさとキャリア教育も今年度で5年目となり、各校、教育委員会の思いを理解し充実した活動が展開されている。どの学校も、みな同じ方向を向いている。市全体としても大きな施策である。今後、地域の素材を教科学習の中で活用していくことを期待したい。	
	② 学校評価の見直し及びさらなる充実		学校教育課
	活動内容	学校評価と人事評価の職員の個人目標を連動させ、職員の経営参画意識を高め、学校経営の充実につなげる。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
学校評価と人事評価を連動し、職員の経営参画意欲が高まり学校経営の充実につながっている学校が増えてきている。			
課題等	来年度、学校評価の評価項目一覧表を見直し、現状にあった形式を校長会に提案し、協議を継続して、大館市の教育目標実現に向けてより適切な形を完成したい。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等の意見	全国に先駆けて実施した学校評価は、少しずつ効果が表れてきている。質も上がっているのではないかと。人事評価に学校評価の評価項目を連動させていることも優れた取り組みである。学校評価を始めて以来、評価項目が変わっていないので、現在の大館市の施策に適合しているか検討が必要である。また、子どもの実態と学校のねらいが整合しているか常に見当が必要である。評価のための評価になってはいけない。		

重点施策点検・評価表

2-4

推進目標		
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造	
重点施策		
4	実践的指導力を高める教職員研修を推進する	担当課(館)
	① 授業力向上を目指した研修の充実	学校教育課
	活動内容	「おおだて型学力」の意味及び目指すものを確実に職員に浸透させる。また、授業においては、児童生徒に前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を確実に身に付けさせるための授業改善に向けた研修会を実施する。
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 学校訪問による指導の他、各種研修会(夏季研修会、ICT活用研修講座、講師研修会等)を実施し、今日的に対応できる内容を実施することができた。1年間の研究成果として、教職員研究実践発表会では、25の発表があった。また、新たに授業マイスター、チャレンジ授業賞を設定したことで、授業力向上に向けて、教師一人一人が自分の授業について見つめ直し、主体的に自己研鑽に取り組むための機会をつくることができた。
	課題等	タブレット端末、プロジェクト型電子黒板の導入に伴って、教育機器として有効に活用し教育効果をあげられるよう、研修会の機会を増やしていきたい。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	学力の諸調査の結果が良好なのは、総じて授業力が高いことを示している。また、授業マイスターやチャレンジ授業賞など、現状に甘んじず一層の向上を目指して様々な仕掛けを行っている。授業力向上は、いつの時代でも大きなねらいである。子どもの数が少なくなっていく中で、教師の授業力が際立ってしまう時代である。ふるさと納税による教育機器の充実を計画しているようだが、新しい授業の展開が生まれてくることも考えられるので、効果的に活用してほしい。
	② 幼保小中高大のさらなる連携の推進	学校教育課
	活動内容	幼保小については、連携が進んでおり、現状の体制を維持していく。高校との連携については、現在行っている高等学校長との教育懇談会をより充実させ、双方向の授業参観等で、小中教員の授業力と高校教員の専門的知識の融合により、より高いレベルの授業を目指す。
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 市教育研究会に幼・保、高校からも参加し、合同の研修機会が定着してきている。課題であった看護福祉大学との連携(小中学生の大学見学、大学生のおおとり教室でのボランティア、大学授業への講師派遣、小中への実習受入)が進みつつある。
	課題等	継続的な様々な取組を通して、高校、短大、大学とのお互いの理解が深まってきている。この機会を捉えてさらに深める施策を行っていきたい。また、市教育研究会への国際情報学院の教師の参加を行うなど、国際情報学院中学校との交流を深めていきたい。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	中・高の連携は、ふるさとを支える人財づくりという点で、非常に重要である。以前から見ると、中・高の垣根は、ずいぶん低くなった。子どもハローワークなどの取組が定着してきたことから、企業との連携も見られるようになってきており、今後が楽しみな状況である。学校教育課の教育施策等の実施状況を見ると、大方目標を達成している。ベースがしっかりしていれば、各校に浸透し、それが、高校、大学につながっていくはずである。	

重点施策点検・評価表

2-5

推進目標			
2	ふるさとに根ざし、自立の気概を培う学校教育の創造		
重点施策			
5	児童生徒の育成に資する教育環境の整備を推進する	担当課(館)	
	① 学校教育環境適正化の推進	学校教育課	
	活動内容	北陽中学校については、3校の閉校に向けての取組を支援していく。橋建設の進捗状況によって安全な通学方法の確保を図る。また、将来を見据えて、第2次学校環境適正化計画の策定に向けて、資料を準備するとともに、教育委員会としての基本方針を検討する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 3校の閉校に向けての取組については、しっかり支援を行い、3校とも素晴らしい閉校式を行うことができた。橋の完成も開校に間に合い、通学方法の確保及び、通学路の安全確保できた。	
	課題等	今後の学校環境適正化計画(学校統合)を進めるに当たっては、統合によって新設された北陽中学校の学校生活が充実したものとなることが必要不可欠な条件となる。継続した支援を行っていきたい。また、学校環境適正化に向けた基本方針をより具体的に検討し、来年度の環境適正化委員会の立ち上げの準備を進める。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	児童生徒数の減少から、学校環境適正化を一層進めなくてはならないことはやむを得ないことである。今後は、学校単位の統廃合だけではなく、学区の再編を含んだ、分割・統合や、小・中一貫なども視野に入れていかななくてはならないだろう。難しい問題でもあるが、現状を考えると避けては通れないだろう。中学校がなくなり小学校もという、地域には大きな問題である。学区再編の場合、線引きは極めて難しい。将来的に自由選択も考えなくてはならないかもしれない。計画をきちんと組める時間を確保しなくてはならないだろう。また、学校建築等に関わって過去に町内と約束ごとがなかったか、情報収集しておく必要がある。	
	② 児童生徒の快適な学校生活を保障する施設・設備の点検・改善	学校教育課	
	活動内容	一人一人の児童生徒が、自己存在感、自己有用感をもつことができるような教室環境の整備に向けて、指導・支援する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 各校とも教室環境の整備が進んでおり、学校訪問のたびに一人一人の児童生徒を大切にしている様子がうかがえた。また、市教委の思いをしっかり捉えて、「ふるさとキャリア教育」を中心に据えた掲示が増えてきている。	
	課題等	活動内容については、評価の通り概ね良好なのだが、毎年同じ時期に同じ掲示でマンネリ化し児童・生徒が関心・意欲を失わないよう常に何らかの新しい工夫を凝らしていけるよう働きかけていく必要がある。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	学びの空間としての、教室環境の整備については、以前は、小学校では非常に良く進められているものの中学校に課題が散見された。しかし、今は、中学校も良好な状況になっている。ただ、課題に掲げている通り、マンネリ化はあると思う。訪問を通して、学校の現状を把握し、適切な助言をしてほしい。		